

みたか環境ひろば 第63号

平成 30年 4 月10日号



環境講座「食品ロス問題を考える～我が家の食生活を見直そう～」を開催しました！

みたか環境活動推進会議・三鷹市主催の「環境講座」が、3月17日の土曜日、午後2時から開催されました。

三鷹市市民協働センターを会場に、52人の参加者が集まりました。

今回、東京農業大学国際食農科学科教授の上岡美保さんをお迎えして「食品ロス問題を考える～我が家の食生活を見直そう～」と題した内容は、次の①～⑤と段階的に話が進められました。

- ①当たり前の食生活とは？
- ②海外に依存する豊かな食生活？
- ③日本の食品廃棄の実態は？
- ④食品ロスは何故出るの？
- ⑤食品ロスを減らすためには？

いずれのテーマも、わかりやすく考えさせられるものであり、特に消費者による食品ロスを出さない取組は注視する事柄でした。「3010（さんまるいちまる）運動」、「サルベージ・パーティ」、「ドギーバッグの活用」などが当たり前という社会になるように、意識を変えていく・学んでいくことが必要だと思います。

今回、講演終了後の質疑応答の際、参加者の8割が「3010運動」を実践していると挙手されていました。

また、ドギーバッグを常に持参している人やサルベージ・パーティを頻繁に開いているという声も聞き、食品ロスへの関心が高まっていることを実感した講座になりました。（千野）



★ 「環境講座の様子」 ★

【用語説明】

- ◆3010（さんまるいちまる）運動：宴会などでの食べ残しを減らすため、宴会開始後30分間と終了10分間は自分の席で料理を楽しむこと（発祥：長野県松本市）
- ◆サルベージ・パーティ：参加者が家庭で余った食材を持ち寄り、料理を美味しく食べること
- ◆ドギーバッグ：外食の際に食べ残した料理を持ち帰るための容器のこと

「エコに繋がる直販マップ～リニューアル版完成～」

J A東京むさし三鷹支店では、地産地消の大切さと都市農業を市民の方々により知ってもらうために直販マップをリニューアルしました。

リニューアルした内容は、市内各農家の農畜産物直売所はもちろん、市民農園やブルーベリーの摘み取り、ブドウのもぎ取りの情報などが掲載されております。

また、三鷹市の歴史や農業についての特徴、そして①景観創出機能②交流創出機能③食育・教育機能④地産地消機能⑤環境保全機能⑥防災機能といった都市農業の6つの機能の紹介なども新たに掲載しており、さらに旬の農畜産物や特産品が一目で分かるように旬のカレンダーを新たに追加掲載しております。



この直販マップを活用することで、旬の農畜産物を旬の時期（旬産旬消）に味わえることができます。

旬産旬消を行うと環境負荷の高い食材の輸入や、工場での生産を減らすことができ、いわゆる「エコ」にもつながります。

リニューアルした直販マップは、三鷹緑化センターや市内JA各支店に置いてあります。是非、直販マップを片手に、家族や近所の友人と一緒に三鷹市内を散策し、新鮮な農畜産物を味わってみてください。（JA東京むさし 平塚）



★ 「直販マップ」 ★

「我が家の庭に来る野鳥」

我が家に猫の額ほどの庭があり、そこに私の誕生を記念して親が植えた柿の木や、私が息子や娘の誕生を記念して植えたみかんと夏みかん、その他に梅や金木犀、木蓮があり、これとは別に千両や万両および南天などが所狭しと植えられています。

春にはメジロやウグイスが梅の新芽を餌に、秋には千両や万両や南天が赤色の実をつける頃に、カラス、ヒヨドリ、インコ、オナガなどがやって来るのを楽しみにしています。

年間を通じて見られる野鳥は、キジバト（ヤマバト）、ヒヨドリ、ムクドリ、シギ、シジュウカラ、カラス、スズメ、メジロ、ウグイス、オナガその他名前が不明な野鳥など10～12種類程度です。

時々、庭掃除の後、庭の片隅に野鳥の餌を撒いて、野鳥が来るのを楽しみの一つにしています。



★「我が家にやってきた野鳥」★

先日大雪が降り、自宅の周りの路を雪掻きをしながらか野鳥のことを考え、餌はどうしているのか心配になり（自宅の庭に来る野鳥だけでもいい）雪の積もらなかった軒下に餌を撒き鳥が来るのを楽しみに待つことにしました。スズメが一番先に十羽程が現れました。次にキジバトが二羽（つがいらしい）見えました。その後ヒヨドリがやってきました。ヒヨドリは、千両や万両の実を食べるので撒いた野鳥の餌には関係がないのですが、スズメやキジバトが、食べているのを追い払い、その後も近くの木の枝に居座って30分以上も監視をし続けています。

このように野鳥それぞれに異なった習性を持っています。それを見ることができ、楽しみでもあります。（鈴木）

「桜の開花」

今年初めて春を感じたのはどのような時かは、各人各様で大変面白いのですが、ここには書ききれません。一方、春本番を感じたのは？と聞くと、「桜の咲くころ」という回答を多く聞きます。

東京では江戸の昔から花見といえば桜だったようですが、落語の登場人物である「熊さん八つつあん」が愛でたのはソメイヨシノではなくオオシマ桜やエドヒガン桜だったようです。ソメイヨシノは江戸時代末期に開発された新品種で明治時代に大流行し、さらに第二次大戦後爆発的に増えたと言われています。今では日本の桜の80%はソメイヨシノであると言われ、全国各地で見られるようになりました。

ソメイヨシノの開花はほぼ南から北へ気温の上昇を追うよう北上します。そして、日本の平均気温が上昇するにしたがって早まる傾向がありました。しかし、近年鹿児島での開花が東京より遅くなるなど、変化の兆し見られています。その原因は、地球温暖化と言われています。桜は花芽を夏に形成しますが、すぐには成長せず、休眠状態になります。冬に一定期間低温に晒されると眠りから覚めたように開花の準備を始めます。「休眠打破」です。こうなると春の気温の上昇のスピードに合わせて花芽の生成も加速します。その結果3月が暖かいと開花が早くなるという話です。問題は冬の寒さです。これがないと「休眠打破」が不完全となり、つまり花芽はなかなか目が覚めず、成長が遅れてしまうのです。最悪咲かないことになりかねません。暖冬が続くと日本の桜は将来危機に陥ります。温暖化の影響は思わぬところにも出てきます。心して対策を考えましょう。（佐野）



★「開花した桜」★

編集後記

先日、小学校1年生と昔遊びをした後、子どもたちと給食を共にする「ふれあい給食」に参加しました。

給食の献立は、深川めし・揚げ出し豆腐・野菜のごま和え・牛乳でした。食べ終わった頃、先生が子どもたちに「まだ残っているでしょ！」と声をかけると、子どもたちは器についていたごはんを一粒も残さずに綺麗に食べ始めました。それを見て、私は思わず自分の残したごま和えの汁を急いですすりました。最後は、子どもたちが私の食器も片づけてくれました。

子どもたちは給食を通じて、食べ物の大切さを学び、片づける思いやりを持つことができたと思います。最後には、昔遊びのお礼の言葉をきちんと伝えるなど、短い時間でしたがとても有意義な機会でした。（山下）

環境掲示板

「エコミューシカルとエコイベント」

主催：みたか環境活動推進会議・三鷹市
日時：平成30年6月24日（日曜日）※時間未定
場所：三鷹市公会堂 光のホール
対象：どなたでも 定員：600人（予定）
申込：詳細は6月3日号広報みたか参照
問合せ：環境政策課（内線2525）

次の発行は平成30年6月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
（愛称 みんなの環境）

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課

電話 0422-45-1151 内線2523・2524

E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。